

学校関係者評価書

1. 本園の「建学の精神」

太陽のあまねくそのひかりでつつむ

太陽（自然）は万物を平等に照らし、慈しみ、はぐくみ育ててくれます。
園章にもありますように園のシンボルである「太陽」のあまねく光のように、
私たちは子どもたち一人一人と向き合い、大切に育てます。

2. 本園の教育理念・方針

グローバル化や ICT・人工知能などの急速な技術革新により、社会は大きく変化していきます。
本園では、子どもたちが5年後、10年後も、キラキラと輝く目でたくましく生きていける
3つの力を育みます。

教育の2本柱：「身体づくり」と「知能を育てる」！！

1. 子どもの持つ素晴らしい 力をぐんぐん伸ばす “土壌づくり”

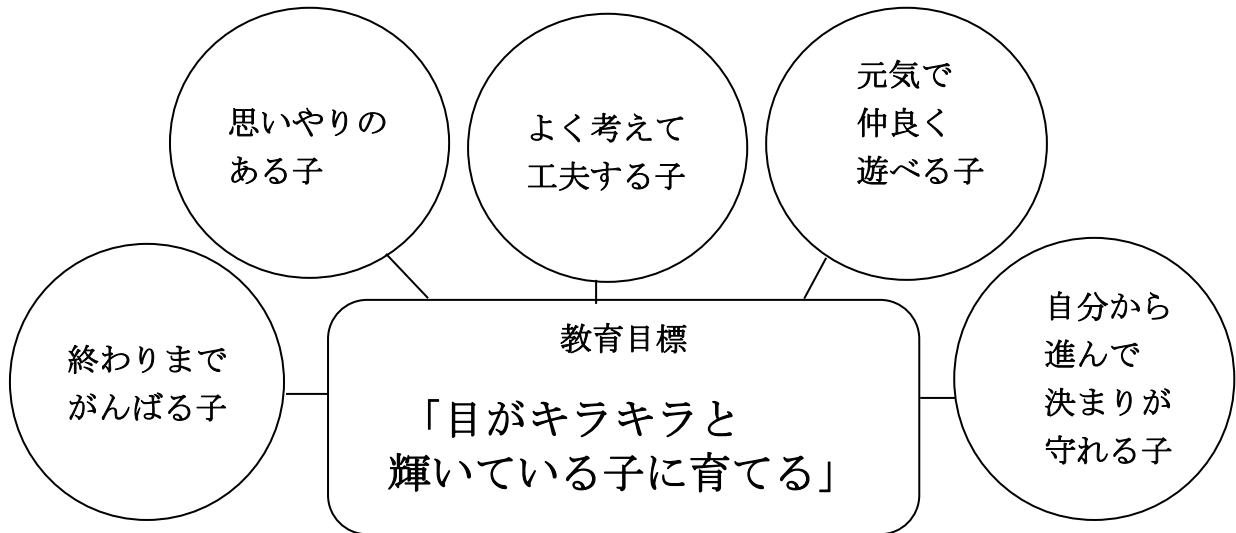
子どもの「やりたい」と
思う主体的意欲は、遊び
を通して得られる経験と
知識の中から芽生えます。
本園はその芽を大切にし、
自然に触れながら「健康
な心」を育み、広い園庭
と体育館で「身体づくり」
に励みます。

2. 人間として、たくましく “生きる力”を育む

本園の教育の2本柱となる
「身体づくり」と「知能を育
てる」を通して自らヤル気をも
って、焦らずゆっくりと学
ぶ楽しさを培い、自ら夢中にな
って取り組む姿勢や思考力・
創造力・最後までやり遂
げる力を身に付けていきま
す。
本園は子どもの未来を見据
え、小学校に行ってから困ら
ない教育を目指します。

3. 他人を思いやる心を 持った子に育てる

本園では近隣の高齢者等
「施設訪問」の実施や、園
周辺道路を「あいさつ通り」
と呼び、あいさつ運動に取り
組むなど、地域の方との
交流を図っています。また
たてわり活動や併設保育園
「キッズハウスよいち」の
お友達とかかわる機会を大
切にし、お年寄りや幼い子
を「思いやる」優しい心を
育んでいます。



3. 教育課程（各学年の教育目標）

（満3歳児目標）	（年少組目標）	（年中組目標）	（年長組目標）
①園に慣れる ②基本的な生活の仕方を 知り園生活を 楽しむ	① 基本的な生活習慣を 身に付ける ② 集団生活に慣れる （毎日喜んで登園 する）	① 活動に進んで取り 組み、最後まで 頑張る ② 友達と遊ぶ楽しさ を味わう ③ 我慢する心を養う ④ 人の話を聴く態度 を養う	① 人の話をよく聴く ② 意欲を持って最後 まで頑張る ③ 自分の事は自分で 責任を持ってやる ④ 誰にでも優しく 思いやりを持つ ⑤ 我慢する心を持つ

4. 学校関係者評価委員会の評価結果

※評価の方法

A:充分達成されている B:達成されている

C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
I. 保育の 計画性	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・良い指導・支援を目指して、学び続ける姿がある。また、活動の質や量の調整、子どもに合った手作り教具（玩具）等、個々の発達や個性・特性に合わせた支援を心掛けている。 ・0歳児から5歳児までの（精神・情緒・肉体）非常に重要な発達期の年齢、保育状況等に合わせた保育、教育を行うことは、非常に大変で且つ重要であり、園の積み重ねてきた経験や知識をベースに新しい知見を加え、計画性を持ち進めることが大事だ。 ・年間を通してたくさんの行事があり、子どもたちは目標を持って行動していると感じる。教師が計画的、意欲的に取り組み、一人一人に寄り添った声掛けをした意識の高さが子どもにも伝わり、子ども自らが考えることにも繋がっている。 ・預かり保育にて、年少児が教室から出ないよう年長児が促す姿を見て、異年齢教室の「小さな先生」の取り組みに感心した。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から5歳児の発達段階を理解し、行事や活動（遊び）の質や量を考え、子どもたちが楽しみながら取り組めるよう、保育内容を計画し実践していく。 ・「子ども主体」の活動を重視しつつ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が身に付くよう、保育のPDCAサイクル（計画、実行、評価、改善）をしていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
II. 保育の在り方 園児への対応	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを受け止め、どうしたいのか・どうしてほしいのか・どんな気持ちなのかを子どもの言葉で考えられるような声掛けや支援を心掛けている。「多様な子どもがいる」という前提に立ち、全ての子どもが安心して過ごせる園を目指して特別支援の視点で支援していくことが大切であると考えている。 ・学年が上がるにつれて、個人差が広がる部分もあると思うが、個々に合わせた配慮や声掛けにより、自己肯定感を高く持つことができていると思う。 ・担任以外の教師にも名前を呼んでもらったり、明るいあいさつや対応をしてもらったりして安心する。 ・降園時の防犯対策を強化し、教師が責任を持って引き渡すことを望む。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に合った声掛けや援助を心掛け、日々の保育や子どもの現れを教師間で共有しながら、子どもたちの「興味・関心」がどこにあるのかを見極め「認知能力」と合わせ「非認知能力」が豊かに育つよう援助していく。 ・危機管理を徹底し、「ヒヤリハット」の事例を教職員間で共有・改善に努め、安心・安全な園生活を送れるよう努めていく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
III. 教師としての 資質や能力 良識・適正	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士がコミュニケーションを取り、園の経営に対する参画意識を持って、それぞれの良さを生かしつつ、できることを探り助け合っている。引き続き、優先順位を付けて、最上位目標「目がキラキラと輝いている子」を目指して業務等を精選し、丁寧な取り組みを大切にしてほしい。 ・教師間のコミュニケーションを重要視していることは理解できるが、意識や情報等の交換の場を増やすことも重要と考える。 ・「報告・連絡・相談」を意味する「ほうれんそう」と共に、報告、連絡、相談を受けた上司が取るべき心構えと対応として、「怒らない・否定しない・助ける・支持する」ことを意味する「おひたし」を心掛けて行ってほしい。 ・教職員全員で子どもたちのことをよく見て指導し、「いけないこと」や「決まり事」等を、きちんと教えてもらっている。また、日頃と異なる変化があった時には、すぐに気づき連絡があるため安心して 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの目がキラキラと輝き、充実した日々を送れるよう、保育に対する意識や業務内容等を教職員間で話し合い、教師一人一人の意識や質を高めていく。 ・「報告・連絡・相談」を密に行い、保育における心配や不安を一人で抱え込まないように、協同し合いながら対応していく。また、教師間のより良い関係性を築くために「怒らない・否定しない・助ける・支持する」ことを心掛けていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
IV. 保護者への 対応	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りや行事等により、子どもの表れを積極的に発信、保護者からの理解に努めている。子ども同様、多様な保護者の心配や思い等の受け止めにも注意を払い、「受信」も大切にしており、安心できる園の運営ができています ・保護者への対応は非常に重要だが、対応の仕方にも千差万別あり、内容によっては、担当が一人で考えたり、対応したりするより、同僚、上司、教頭、園長先生に報告、相談し、適切なアドバイスや指示を受ける方がより良い結果になりやすいと思う。 ・子どもの良い所や注意すべきところを伝えてもらっている。園での様子が子どもの話だけでは分からないため、細かく状況を話してもらい助かっている。また、教師から伝えてもらった内容について、家庭に戻ってからも気に掛けて声掛けができています。 ・保護者とコンタクトを取ろうと努力しているが、上手くいかないと感じている教師がいるように思う。また、保護者の中にも、思うように話ができない人がいると思うため、改善していけると良い。 ・時間にゆとりがないと行動に現れ、危険な状況になるため、安全運転での送迎を園からも保護者へ注意喚起して行ってほしい。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・教師の資質や保護者への対応基準を統一。また安心してもらえるよう、立ち振る舞いに気を付けながら、保護者とのコミュニケーションを充実させていく。 ・保護者からの意見を率直に受け止め、反省、改善していくと共に、保護者に分かりやすい内容で発信し、園運営への理解と協力を求めていく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
V. 地域の自然や 社会との かかわり	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・井宮北小学校との体験授業や、賤機南小学校の「なりたい自分講座」等、幼小の接続を意識した取り組みがされている。きれいな水が流れる川や水路が園周辺にたくさん通っている「きれいで豊かな水も」この地域の誇れるものだと思う。 ・地域とのかかわりは社会との接点であり、これから育っていく上でのルールや規範を学ぶことになる。「自然に接する教育」も、自然界の生態やそれらを楽しむことの意義を教えることになり非常に重要で、園では以前から積極的に取り組む体制ができています。 ・小学校見学では、学校の様子を見たり知り合いに会ったりと良い刺激になった。体験授業は学校生活をイメージしやすく、小学校に対して不安に思っている子には、心の準備をする良い機会だと思う。今後も小学校と積極的に連携して行ってほしい。 ・園内だけでなく園外活動で学ぶことは多いと思う。散歩や河川敷でのマラソン、園バスで園外に行くことは、園周辺の自然を感じたり、公共の場でのマナー等を学んだり良い刺激となる。今後も「安心・安全」に積極的な活動を望む。 ・交通教室や避難訓練等を定期的実施することで、身を守るためのルールが身に付いているように感じる。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・就学を控えた子どもたちが小学校生活をイメージし、安心して小学校に就学していけるよう、今後も学校見学等の計画を小学校と連携して行っていく。 ・園周辺を散歩し地域の人と会うことを通して、社会に必要な「コミュニケーション能力の基礎」を培うと共に、地域に見られる自然の変化や豊かさを知る体験が充実するよう努めていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
VI. 研修と研究	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちにとってより良い保育」と、「子ども主体」の考え方に立ち、子ども理解や教材研究等、職員の研修が進められている。子どもの「やりたい」という主体的な意欲を引き出す指導を目指して、職員間の共有が進み、組織的な研修が実現できることを期待する。 ・教師間の意識や知識、情報の交換と共に、小学校や他園等の交換会があると園の座標位置が分かり、今後の研鑽に意味を成すと思う。 ・子育て世代の教師が多く、仕事と家庭の両立が大変な中、研修や研究に取り組んでいることは素晴らしく感謝する。教師の研修や日々の努力、苦労等、PTA 役員になったことで「知りたい」「他の保護者に分かってほしい」という気持ちに変化した。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から5歳児までの発達と現れを理解し保育する中で、子どもたちの楽しみが「意欲」へと繋がるよう、保育内容や教材研究を積み重ねていく。 ・日々の保育を振り返り、PDCA サイクル（計画、実行、評価、改善）を行い、より良い保育展開ができるよう、園内研修だけでなくオンライン研修や公開保育研修に参加して学んだ内容を教職員間で共有し、保育に活かしていく。

令和7年度まとめ及び令和8年度への方針

1. 令和7年度のまとめ

インフルエンザの感染報告が聞かれる中、本園では日頃からご家庭にご協力いただき、園児だけでなく同居家族の体調をも把握し、第一ひかり幼稚園・キッズハウスよいちが、同様の基準にて感染防止対策を徹底し園運営を行ってきた。そして体調が優れない場合には無理をせず休息を取っていただく等、体調管理に努めていただくよう周知し感染拡大防止に努めてきた。

また、行事や参観会は「子どもたちの安心・安全」を第一に考え、活動内容に合わせて学年別や全員での開催等の計画・実施をし、季節行事の集会は自由参加型の参観として保護者に周知し、子どもたちの様子を参観できる場を設け開催してきた。

そして、令和8年度より、「第一ひかり幼稚園」と「キッズハウスよいち」が統合し、幼稚園型認定こども園となることから、運動会では保育園の0歳児から幼稚園の5歳児までが一緒になって参加し、それぞれの発達に合わせた競技、演技を披露、マラソン大会では、保育園の2歳児が、幼稚園の満3歳児と一緒に参加する等、次年度へ向け活動や取り組みがスムーズになるよう、幼稚園教諭と保育士が相談・連携を取って対応してきた。

また、今年度はクマ被害の報道を良く聞き、静岡市においても、子どもたちの身近な場所でクマの目撃情報が出たことから、園外に出る際には事前に現地を視察して安全確認をすることは勿論のこと、クマよけの鈴を購入し、教職員が鈴を持参して園外あそびや学習、園周辺の散歩に出掛け、子どもたちの安全を守れるよう努めてきた。

また、事故や災害に備え今年度も静岡中央警察署の交通課や葵消防署に依頼し、交通ルールや火災時の適切な避難の仕方、また、消火手順について子どもたちだけでなく教職員も指導を受け、日頃の活動や避難訓練に活かしてきた。

教職員間では、互いの思いを伝え合い、子どもたちが「不安」や「危険」にさらされないよう、教職員間のコミュニケーションを大切に、情報や意見を交わしながら共有するよう努めてきた。

今後は、教師一人一人が積み上げてきた経験を活かし、情報共有、意見交換の強化を図りながら、0歳児から5歳児までが伸び伸びと園生活を送れるよう今まで以上に「安全面」に配慮し、安全対策における知識と技術の習得に努めていく。そして、子どもたちが「やりたい」と思うことに夢中になって取り組める環境を整え、「自己表現力」と「自己肯定感」を育み、「自信」へと繋げられるよう、園と家庭とが力を合わせて子どもたちの成長を見守り、子どもたちが、「幼稚園は楽しい」と思える園運営に努めていく。

2. 令和8年度取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
あいさつ運動の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を通して教師や友達と「元気で明るいあいさつ」を交わし、気持ちよく一日がスタートできるようにすると共に、TPOに合わせたあいさつができるよう指導を継続していく。 ・あいさつを通して培った「コミュニケーション能力」を基に「自己表現力」の向上へと繋げられるよう、一人一人の気持ちに寄り添い受け止めていき、「幼稚園は楽しい」「幼稚園が好き」になってくれるよう努めていく。 ・「あいさつ運動」を通して地域の人と顔見知りとなり、入園前から卒園後も繋がりを持てるよう「あいさつの基礎作り」をしていく。 ・乳児においては、教師があいさつの見本を示しながら、模倣する中で自然とあいさつが身に付くよう促していく。
子どもたちが健康で安心・安全な環境の中、のびのびと園生活を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から5歳児までの子どもの発達を理解し、子どもたちの興味・関心事を見極め、発達に合った教材準備や教材提供の仕方、活動（遊び）等を学び合い、環境を整えていく中で、次第に「考える力」「夢中になって遊ぶ力」が育めるようにする。 ・子どもたちのまだ十分には言葉にならない様々な思いを丁寧に汲み取り、受け入れつつ、子どもの「自分でしたい」という思いや願いを尊重して、その発達や生活の自立を温かく見守り支えていく。そして、経験したことや考えたこと等を、自分なりの言葉で表現し、相手の気持ちを聞こうとする意欲や態度を育てながら、得意とする分野（絵画・工作・劇遊び等）にて思いを表現し、「自信」や「自己肯定感」「最後まで頑張る力」等の非認知能力を培っていきけるよう促していく。 ・自然豊かで恵まれた環境に位置する園の特徴を活かし、園周辺の散歩に出掛け、地域の人と触れ合うと共に、季節の変化や植物の成長に気付く自然体験を通して、豊かな心を育んでいく。 ・英語のアニメや音楽を聞き、視覚・聴覚から「英語に触れる」機会を設け、年長児は「国際交流」や「ICTキッズ」を体験していく。 ・子どもたちの「健康安全管理」については、教職員で情報を共有して取り組むことを継続し、子どもたちの些細な表情や体調の変化を見逃さないよう、注意深く視診していく。 ・子ども一人一人の生活リズムを大切にしながら、安心感が持てる保育を心掛け「幼稚園は楽しい」と思える環境を整えていく。

<p>地域に根差した 幼稚園づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育方針を地域（外部）に発信し、園運営の理解を得ていく。 ・「あいさつ運動」を通して卒園児や未就園児、地域の人と繋がり、また、園庭開放にて園が地域の人にとって「安心できる憩いの場」となれるよう努めていく。 ・小学校就学を控えた子どもたちが、就学後自信を持って学校生活を送れるよう、小学校との連絡・連携を行い、相互理解を深め、「小学校へ行っても困らない教育」として、基本的な生活習慣の習得や幼児期に経験・体験しておきたい教育の実践をしていく。
<p>教職員の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間のコミュニケーションを心掛けながら、「チームワーク力」を高め、自分の意見を伝えると共に、相互に相手の思いを尊重しながら、意見が交換できる環境作りを構築していく。
<p>保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発達段階において、まだ十分に言葉で伝えきることが難しい園での様子を、ホームページや通信、クラスだより等に写真を載せながら活動（遊び）内容を発信し、保護者と共に「子育ての楽しさや成長」を喜び合える関係性を大切にし、信頼関係を築いていく。